可児市埋文調査報告　60

可児市市内遺跡発掘調査報告書

（R2～R4年度）

2024

岐阜県　可児市

可児市埋文調査報告　60

可児市市内遺跡発掘調査報告書

（R2～R4年度）

2024

岐阜県　可児市

例　言

1．本書は、国庫補助金を受けて実施した市内遺跡発掘調査報告書である。

2．本書には、令和２～令和４年度に実施した試掘確認・立会調査等の調査記録を掲載する。

3．本書の執筆と編集は長江真和が担当した。実測・トレースは、長江、工藤雅子、小鷹夏子、高橋涼子が行った。遺構・遺物の写真撮影は長江が行った。

4．各年度の発掘調査業務の体制は次のとおりである。

令和２年度

文化スポーツ部長	杉山徳明
文化財課長	川合俊
文化財係長	松田篤
調査・整理担当者	長江真和　村上慶介

令和３年度

文化スポーツ部長	三好誠司
文化財課長	川合俊
文化財係長	松田篤
調査・整理担当者	長江真和　村上慶介

令和４年度

文化スポーツ部長	三好誠司
文化財課長	飯田好晴
文化財係長	松田篤
調査・整理担当者	長江真和

5．遺物の図面及び写真は、口縁部や底部など土器の特徴がわかるものを選別して掲載している。

6．現地調査及び整理作業の過程で、長瀬治義氏にご指導とご協力を賜った。

7．本書に掲載した出土遺物、図面、写真は、すべて可児市（可児郷土歴史館）で保管している。

目　次

例言
第１章　埋蔵文化財の有無照会…… 1
第２章　令和２年度試掘確認・立会調査など…… 5
第３章　令和３年度試掘確認・立会調査など……19
第４章　令和４年度試掘確認・立会調査など……27
第５章　北裏地内古墳出土資料紹介……35
写真図版……38

挿図目次

図１　掲載遺跡位置図 ……4
図２　北裏遺跡調査位置図 ……5
図３　七ツ塚古墳群調査位置図 ……5
図４　北裏遺跡試掘各図 ……6
図５　川合雨池地内調査位置図 ……7
図６　金山城下町遺跡調査位置図 ……7
図７　川合雨池地内試掘各図 ……8
図８　金山城下町遺跡試掘位置図及び土層略図 ……8
図９　次郎兵衛塚古墳群近接地調査位置図 ……9
図10　今渡遺跡調査位置図 ……9
図11　次郎兵衛塚古墳群近接地試掘位置図及び土層図… 10
図12　今渡遺跡試掘位置図及び土層図 …… 10
図13　柿田遺跡調査位置図 …… 11
図14　久々利城跡調査位置図 …… 11
図15　柿田遺跡試掘位置図及び土層略図 …… 12
図16　狐塚古墳試掘位置図及び土層図 …… 12
図17　狐塚古墳調査位置図 …… 13
図18　土田北割田遺跡調査位置図 …… 13
図19　土田北割田遺跡試掘位置図及び土層図 …… 14
図20　七ツ塚古墳群調査位置図 …… 14
図21　柿田西遺跡Ｄ～Ｇ地点調査位置図 …… 15
図22　柿田西遺跡Ｄ地点試掘各図 …… 16
図23　柿田西遺跡Ｅ地点試掘各図 …… 17
図24　柿田西遺跡Ｇ地点試掘各図 …… 18
図25　柿田西遺跡Ｃ地点調査位置図 …… 19
図26　徳野遺跡調査位置図 …… 19
図27　柿田西遺跡Ｃ地点試掘各図 …… 20
図28　徳野遺跡試掘位置図及び土層図 …… 21
図29　金山城下町遺跡試掘位置図及び土層図 …… 21
図30　今城跡調査位置図 …… 22
図31　金山城下町遺跡調査位置図 …… 22
図32　久々利城跡調査位置図 …… 23
図33　不孝寺塚古墳調査位置図 …… 23
図34　柿田遺跡調査位置図 …… 24
図35　土田定安遺跡調査位置図 …… 24
図36　土田定安遺跡試掘位置図及び土層図 …… 25
図37　今城跡試掘位置図及び土層図 …… 25
図38　今城跡調査位置図 …… 26
図39　鳴子東遺跡調査位置図 …… 27
図40　金山城下町遺跡調査位置図 …… 27
図41　鳴子東遺跡試掘位置図及び土層図 …… 28
図42　柿田遺跡試掘位置図及び土層図 …… 28
図43　柿田遺跡調査位置図 …… 29
図44　野中古墳調査位置図 …… 29
図45　長塚古墳調査位置図 …… 30
図46　今渡金屋遺跡調査位置図 …… 30
図47　長塚古墳試掘位置図及び土層図 …… 31
図48　今渡金屋遺跡試掘位置図及び土層図 …… 31
図49　北裏遺跡調査位置図 …… 32
図50　宮之脇古墳群近接地調査位置図 …… 32
図51　宮之脇古墳群近接地試掘位置図及び土層図… 33
図52　今渡金屋遺跡試掘位置図及び土層図 …… 33
図53　金山城下町遺跡調査位置図 …… 34
図54　今渡金屋遺跡調査位置図 …… 34
図55　土田地域における古墳の分布 …… 36
図56　北裏古墳出土遺物 …… 36

表 目 次

表１　埋蔵文化財の有無照会集計表 ……1
表２　R2～4年度調査一覧表 ……2
表３　R2～4年度調査法手続き一覧 ……3

第１章　埋蔵文化財の有無照会

可児市では、市内遺跡発掘調査事業の一環として、市内の土地にて埋蔵文化財の有無について照会を文書で受け付け、回答している。埋蔵文化財の有無回答について統一するための記録を残すことや開発に対して可児市と開発業者双方がスムーズに協議し、対処しやすくするためでもある。令和２～令和４年度の照会件数は、次に示すとおりである。なお、令和３年度については令和４年２月～３月分のデータが滅失したため、令和３年４月～令和４年１月までの件数で計算している。

年　度	事業別	照会地番ごとの回答件数		回答内容					
		有	無	無	慎重	立会	試掘	本掘	現保
令和２年度 照会件数 657件	民間事業	46	656	631	10	19	20	4	0
	公共事業	2	13	13	0	0	1	1	0
	合　計	48	669	644	10	19	21	5	0
令和３年度 照会件数 544件	民間事業	16	556	545	13	8	7	3	3
	公共事業	0	1	1	0	0	0	0	0
	合　計	16	557	546	13	8	7	3	3
令和４年度 照会件数 736件	民間事業	65	701	694	14	13	44	3	0
	公共事業	0	3	3	0	0	0	0	0
	合　計	65	704	697	14	13	44	3	0

表１　埋蔵文化財の有無照会集計表

※照会件数と照会地番ごとの回答件数の合計が同数とならないのは、１件の照会の中に複数個所の土地を含むものがあるためである。「無」を答えた場所でも埋蔵文化財包蔵地に隣接している場合は試掘や工事立会を行う場合もある。また、本件数はあくまでも有無の照会による回答であり、実際に実施に至っているとは限らない。

※慎重－慎重工事　立会－工事立会　試掘－試掘調査　本掘－本発掘調査　現保－現状保存

試掘調査・工事立会以外の各年度の保存目的調査及び本発掘、測量調査など埋蔵文化財等にかかる事業は下記のとおりである。

令和２年度

・柿田西遺跡Ｆ地点本発掘調査（詳細は刊行予定の報告書に譲る）
・可児市市内遺跡発掘調査報告書（H30～ R1）刊行
・美濃金山城跡主郭発掘調査報告書刊行

令和３年度

・柿田西遺跡Ｂ地点本発掘調査（R4年度へ継続。詳細は刊行予定の報告書に譲る）
・柿田西遺跡Ｃ地点本発掘調査（詳細は刊行予定の報告書に譲る）
・柿田西遺跡Ｄ地点本発掘調査（詳細は刊行予定の報告書に譲る）
・柿田西遺跡Ｅ地点本発掘調査（詳細は刊行予定の報告書に譲る）
・柿田西遺跡Ｇ地点本発掘調査（詳細は刊行予定の報告書に譲る）

令和４年度

・柿田西遺跡Ｂ地点本発掘調査（詳細は刊行予定の報告書に譲る）

・柿田西遺跡Ａ地点本発掘調査（詳細は刊行予定の報告書に譲る）

・柿田西遺跡Ｍ１地点本発掘調査（詳細は刊行予定の報告書に譲る）

・美濃金山城跡主郭・東Ⅰ・米蔵跡発掘調査（滋賀県立大学へ支援委託）

年度	番号	遺　跡　名	調査種類	調査原因	期　　間
R2	1	北裏遺跡	試掘	住宅新築工事	4月7日
	2	七ツ塚古墳群	工事立会	銅像の設置と伐根	4月27日
	3	川合雨池古墳	試掘	筆会整理	6月17日～22日
	4	金山城下町遺跡	試掘	住宅新築工事	8月7日
	5	次郎兵衛塚古墳群近接地	試掘	住宅新築工事	8月18日
	6	今渡遺跡	試掘	住宅新築工事	9月15日
	7	柿田遺跡	試掘	住宅新築工事	10月7日
	8	久々利城跡	工事立会	見学通路整備	1月15日～3月26日
	9	狐塚古墳	試掘	マンション新築工事	3月10日
	10	土田北割田遺跡	試掘	太陽光発電設備の設置	3月11日
	11	七ツ塚古墳群	工事立会	観光用ベンチの設置	3月16日
	12	柿田西遺跡Ｄ・Ｅ・Ｇ地点	試掘	遺跡の内容及び範囲確認	3月23日～26日
R3	1	柿田西遺跡Ｃ地点	試掘	遺跡の内容及び範囲確認	4月12日
	2	徳野遺跡	試掘	住宅新築工事	5月19日
	3	今城跡	工事立会	柵修繕工事	6月11日～3月25日
	4	金山城下町遺跡	試掘	住宅新築工事	8月27日
	5	柿田西遺跡Ｃ地点	試掘	遺跡の内容及び範囲確認	9月29日
	6	久々利城跡	工事立会	柵修繕工事	11月12日～3月31日
	7	不孝寺塚古墳	工事立会	石室保護工事	11月18日、24日
	8	柿田遺跡	工事立会	道路拡幅工事	11月19日、1月13日
	9	柿田遺跡	工事立会	用排水構造物の撤去及び新設	12月20日、3月8日
	10	土田定安遺跡	試掘	住宅新築工事	2月15日
	11	今城跡	試掘	住宅新築工事	3月25日
R4	1	鳴子東遺跡	試掘	分譲住宅建設工事	5月12日
	2	金山城下町遺跡	工事立会	住宅新築工事	6月30日
	3	柿田遺跡	試掘	住宅新築工事	6月30日
	4	野中古墳	工事立会	分譲住宅建設工事	9月1日
	5	長塚古墳	試掘	事務所新築工事	10月5日
	6	今渡金屋遺跡	試掘	店舗新築工事	11月8日
	7	北裏遺跡	工事立会	住宅新築工事	12月7日
	8	金山城下町遺跡	工事立会	住宅新築工事	1月17日
	9	宮之脇古墳群近接地	試掘	住宅新築工事	1月19日
	10	金山城下町遺跡	工事立会	住宅新築工事	1月24日
	11	今渡金屋遺跡	試掘	分譲住宅建設工事	2月24日

表２　R2～4年度調査一覧表

年度	番号	遺跡名	93条・94条提出	93条・94条進達	埋蔵文化財の通知	発掘調査等報告書
R2	1	北裏遺跡	R2.2.12	R2.4.8　文第５号	R2.5.1 文伝第103号の90	R2.4.7　文第4号
	2	七ツ塚古墳群		R2.4.13　文第10号	R2.4.23 文伝第104号の4	R2.4.30　文第12号
	3	川合雨池古墳				R2.6.29　文第21号
	4	金山城下町遺跡	R2.7.28	R2.8.11　文第27号	R2.8.28 文伝第103号の378	R2.8.11　文第26号
	5	次郎兵衛塚古墳群近接地				R2.8.19　文第28号
	6	今渡遺跡	R2.9.1	R2.9.24　文第38号	R2.9.30 文伝第103号の488	R2.9.16　文第37号
	7	柿田遺跡	R2.9.4	R2.10.14　文第46号	R2.10.27 文伝第103号の558	R2.10.8　文第43号
	8	久々利城跡	R3.1.15	R3.1.15　文第59号	R3.1.15 文伝第103号の841	R3.3.26　文第85号
	9	狐塚古墳	R3.3.1	R3.3.18　文第77号		R3.3.17　文第75号
	10	土田北割田遺跡	R3.1.14	R3.3.18　文第78号	R3.3.25 文伝第103号の982	R3.3.17　文第76号
	11	七ツ塚古墳群		R3.2.19　文第56号	R3.3.8 文伝第104号の189	R3.3.17　文第80号
	12	柿田西遺跡Ｄ・Ｅ・Ｇ地点				R3.4.12　文第9号
R3	1	柿田西遺跡Ｃ地点				R3.4.14　文第11号
	2	徳野遺跡	R3.4.29	R3.5.24　文第21号	R3.6.2 文伝第113号の190	R3.5.24　文第20号
	3	今城跡	R3.5.31	R3.6.2　文第24号	R3.6.11 文伝第113号の213	R4.4.21　文第9号
	4	金山城下町遺跡	R3.8.16	R3.9.1　文第44号	R3.9.14 文伝第113号の490	R3.8.30　文第43号
	5	柿田西遺跡Ｃ地点				R3.10.11　文第66号
	6	久々利城跡	R3.11.11	R3.11.12　文第76号	R3.11.18 文伝第113号の711	R4.4.21　文第8号
	7	不孝寺塚古墳		R3.9.24　文第58号	R3.10.4 文伝第114号の132	R3.12.9　文第84号
	8	柿田遺跡		R3.5.12　文第17号	R3.5.24 文伝第114号の32	R4.1.21　文第92号
	9	柿田遺跡	R3.9.28	R3.10.8　文第65号	R3.10.13 文伝第114号の141	R4.3.15　文第111号
	10	土田定安遺跡	R4.2.10	R4.2.17　文第99号	R4.3.1 文伝第113号の981	R4.2.16　文第98号
	11	今城跡				R4.4.5　文第5号
R4	1	鳴子東遺跡				R4.5.13　文第17号
	2	金山城下町遺跡	R4.6.20	R4.6.20　文第30号	R4.6.30 文伝第123号の300	R4.7.1　文第31号
	3	柿田遺跡	R4.6.24	R4.7.5　文第35号	R4.7.11 文伝第123号の310	R4.7.5　文第34号
	4	野中古墳	R4.8.22	R4.8.24　文第47号	R4.8.31 文伝第123号の463	R4.9.5　文第48号
	5	長塚古墳	R4.8.5	R4.10.11　文第57号	R4.10.19 文伝第123号の593	R4.10.11　文第56号
	6	今渡金屋遺跡	R4.10.17	R4.11.19　文第68号	R4.11.22 文伝第123号の697	R4.11.9　文第67号
	7	北裏遺跡	R4.11.4	R4.11.7　文第65号	R4.11.22 文伝第123号の696	R4.12.9　文第73号
	8	金山城下町遺跡	R5.1.6	R5.1.10　文第75号	R5.1.16 文伝第123号の859	R5.1.23　文第76号
	9	宮之脇古墳群近接地				R5.1.23　文第77号
	10	金山城下町遺跡	R4.11.9	R4.11.14　文第69号	R4.11.25 文伝第123号の708	R5.1.31　文第82号
	11	今渡金屋遺跡	R5.2.10	R5.2.27　文第88号	R5.3.10 文伝第1123号の31	R5.2.27　文第87号

表３　R2～4年度調査法手続き一覧

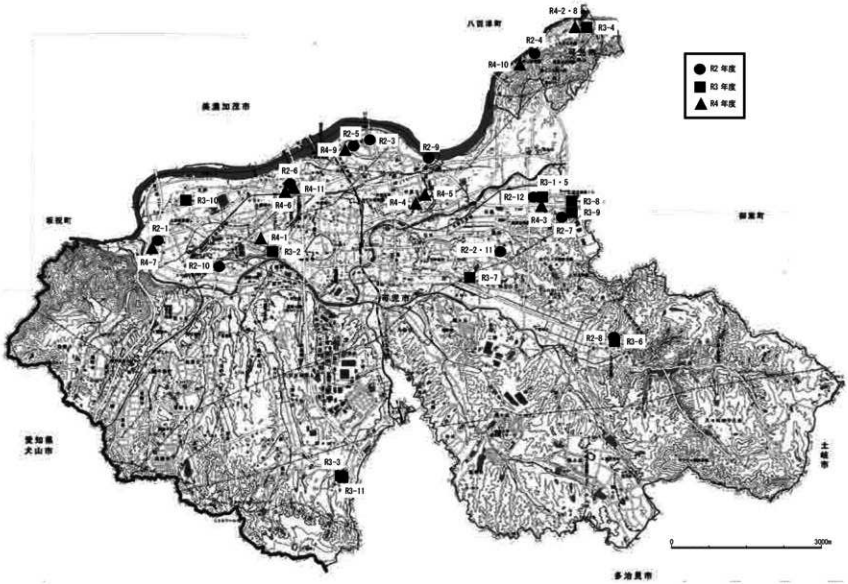

R4-2・8
R3-4
八百津町
R2-4
R4-10
R2 年度
R3 年度
R4 年度
美濃加茂市
R2-5
R2-3
R4-9
R2-9
R2-6
R4-11
R3-1・5
R3-10
R4-6
R4-4
R4-5
R2-12
R2-8
R3-9
R4-3
R2-7
御嵩町
可児町
R2-1
R4-1
R3-2
R4-7
R2-10
R2-2・11
R3-7
可児市
R2-8
R3-6
愛知県
犬山市
R3-3
R3-11
土岐市
0
3000m
多治見市

図１　掲載遺跡位置図

第２章　令和２年度試掘確認・立会調査など

2-1　北裏遺跡試掘調査

北裏遺跡は、可児市土田地域に位置し、多時期にわたる遺物が出土した複合遺跡である。

特に縄文時代の合口甕棺、炉跡、石組遺構などの遺構が検出され、土偶や耳飾、玉類などの遺物が出土した遺跡として周知されている。

北裏遺跡の範囲内で住宅新築工事が計画されたため、試掘調査を実施した。

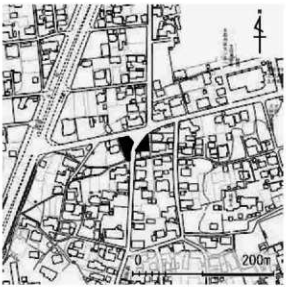


図２　北裏遺跡調査位置図

調査内容

東側に１トレンチ（約4.1m×1.0m）、２トレンチ（約3.4m×1.0m）、西側に３トレンチ（約6.0m×1.0m）、４トレンチ（約2.0×1.0m）の４箇所のトレンチを設定した（図４）。

現地表面から60～150㎝下まで改変が入り、３・４トレンチの10層からは山茶碗９点と近世陶器１点が現代の瓦片とともに出土した。北側の道路付近及び西側は道路施工時等に大きな改変が入っていることが想定される。また、改変が少ない１トレンチ内でも遺構は検出されず、遺物は出土しなかった。遺物は、３・４トレンチから出土した比較的残りの良い山茶碗６点を図化した。

調査の結果、調査地は遺構はすでに滅失しているか、北裏遺跡の範囲外であることが考えられる。

2-2　七ツ塚古墳群工事立会

七ツ塚古墳群は、可児市羽崎地域の東西にのびた丘陵上に位置し、直径1.0～1.5mの墳丘が東西に連なった状態で現存している。

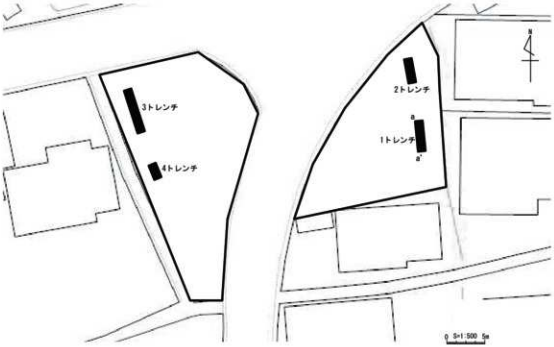
これまで発掘調査が実施されておらず、墳丘が小さいことから経塚の可能性も考えられている。

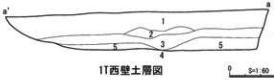
銅像の設置と伐根が計画され、現況の七ツ塚古墳群の位置とはやや離れているが、包蔵地の範囲内にあるため、工事立会を実施した。

図３　七ツ塚古墳群調査位置図

調査内容

現地表面より40～50㎝下で凝灰質砂岩の地山面となり、地山面には遺構はみられなかった。堆積土から遺物は出土しなかった。

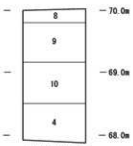




1T西壁土層図

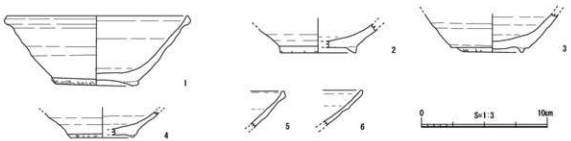
2T土層略図

3T土層略図



4T土層略図

1	10YR3/3	暗褐色	シルト層	しまり弱い	粘性弱い	※5～50mmの礫を含む〔表土層〕
2	10YR3/4	浅黄褐色	砂質土	しまり弱い	粘性弱い	〔撹乱層〕
3	10YR3/1	黒褐色	砂質土	しまり弱い	粘性弱い	〔堆積土〕
4	10YR8/6	黄褐色	砂質土	しまり弱い	粘性弱い	〔地山〕
5	3層と4層が混じる撹乱層					
6	10YR6/8	明黄褐色	砂礫層	しまり弱い	粘性弱い	※5～100mmの礫を含む〔造成土〕
7	10YR5/4	にぶい黄褐色	砂質土	しまり弱い	粘性弱い	〔4層の土をブロック状に含む撹乱層〕
8	バラス、アスファルト層					
9	10YR5/1	褐灰色	砂礫層	しまりあり	粘性弱い	※5～160mmの礫を含む〔コンクリート含む造成土〕
10	10YR2/2	黒褐色	砂質土	しまり弱い	粘性弱い	※5～300mmの礫を含む〔現代の瓦、山茶碗を含む撹乱層〕



図版	種類	器種	口径	器高	底・高台径	残存率（%）	時期	備考
1	山茶碗	碗	(14.4)	5.5	5.9	高台部100	白土期1	高台にモミガラ痕、底部外面に回転糸切痕、底部内面にナデ痕あり。内外面に自然釉が付着。
2	山茶碗	碗	－	(2.3)	(6.0)	高台部18	焼貞1	高台にモミガラ痕、底部外面に回転糸切痕あり。内面に自然釉が付着。
3	山茶碗	碗	－	(3.0)	(4.4)	高台部16	大窯大薄4	高台にモミガラ痕、底部外面に回転糸切痕、底部内面にナデ痕あり。
4	山茶碗	碗	－	(2.0)	(5.0)	高台部28	大窯東1	高台にモミガラ痕、底部外面に回転糸切痕あり。
5	山茶碗	碗	－	(3.0)	－	－	白土期1	内面に自然釉が付着。
6	山茶碗	碗	－	(2.9)	－	－	大窯東1	

図４　北裏遺跡試掘各図

2-3　川合雨池地内試掘調査

川合雨池地内で、住宅工事に伴う筆界整理が計画された。土地所有者の話では過去にこの場所に古墳があり、銀装大刀や耳環が出たといわれる（遺物は現存していない）。周辺に川合古墳群もあることから事前に試掘調査を実施した。

図5　川合雨池地内調査位置図

調査内容

現在の建物が建っている部分等を避け、古墳想定部分に４箇所のトレンチ（1～4T）を設定した（図7）。３トレンチでは、２～３段に川原石が積まれた石室の一部（南北長さ約1.3m、高さ約40㎝）が検出された。ただ、トレンチ内は現代の廃棄物を伴う掘りこみがあり、南側の３つの石材も石室を構成していた可能性があるが、原位置を保っていない。検出された石室よりも上に石が積まれていたと考えられるが、上面は改変が入っており、石室の裏込めや墳丘盛土等は確認されなかった。２トレンチは径10～20㎝の川原石が散乱した地山面に、時期不明の掘りこみが検出された。３トレンチが石室の一部と考えた場合には石室の中の可能性があり、散乱した川原石は礫床の可能性も考えられるが、原位置は保っていない。１・４トレンチは現代の改変が大きく入っており、周溝等の古墳に伴う遺構は検出されなかった。各トレンチから遺物は出土していない。

調査の結果、石室は西側の側壁が一部残っているのみで、大きく壊れていることが明らかとなった。調査状況から石室は南側に開口していたことが想定される。周溝等は検出されず、古墳の規模は不明であるが、古墳の存在が確認できたことは大きな成果といえる。97条の遺跡発見通知を出し、「川合雨池古墳」とした。

2-4　金山城下町遺跡試掘

金山城下町遺跡は、美濃金山城跡と木曽川の間に形成された中世の城下町遺跡である。城跡との比高差は170mを測り、現在の町も南北に走る道を中心に短冊状の地割が残る。

金山城下町遺跡の範囲内で住宅新築工事が計画されたため、試掘調査を実施した。

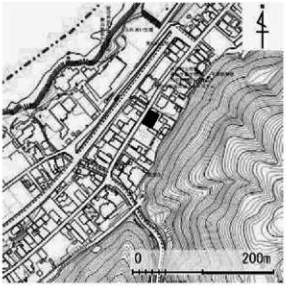
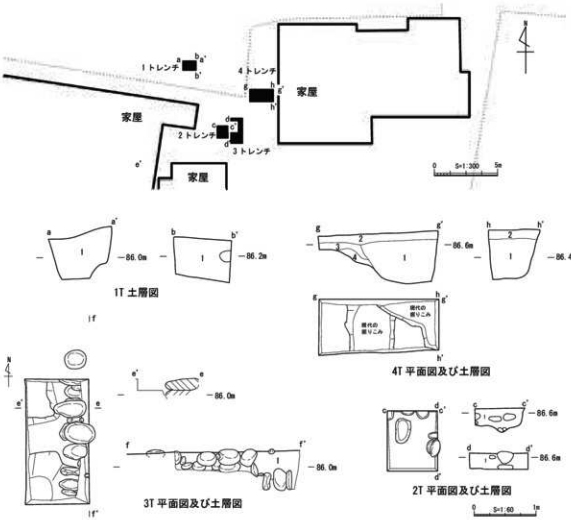


図6　金山城下町遺跡調査位置図

調査内容

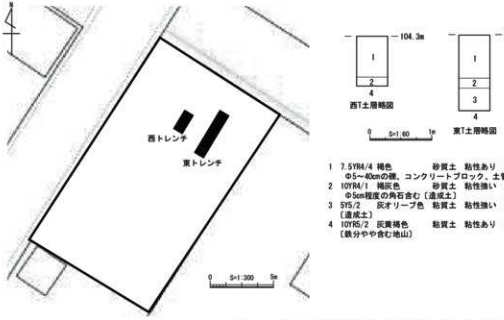
調査地内の西側に長さ約2.0m、東側に長さ約4.0m、幅約1.0mのトレンチを設定した（図8）。

現地表面から西トレンチで約80㎝、東トレンチで約120㎝の掘削を行い、地山面に達した。地山面まではすべて造成土であり、遺構はみられず、



1　10YR5/2　黒褐色　砂質土　しまりあり　粘性弱い　φ5～20mmの礫を少量含む〔現代の廃棄物を含む堆積土〕
2　7.5YR3/1　黒褐色　砂質土　しまりあり　粘性強い　φ5～40mmの礫を少量含む〔表土〕
3　7.5YR2/1　黒色　砂質土　しまりあり　粘性あり　φ5～40mmの礫を少量含む〔現代の堆積土層〕
4　10YR4/3　にぶい黄褐色　砂質土　しまりあり　粘性弱い　φ5～20mmの礫を少量含む〔地山の再堆積〕

図７　川合雨池地内試掘各図



1　7.5YR4/4　褐色　砂質土　粘性あり　しまりあり
φ5～40cmの礫、コンクリートブロック、土管含む〔造成土〕
2　10YR4/1　褐灰色　砂質土　粘性強い　しまり弱い
φ5cm程度の角石含む〔造成土〕
3　5Y5/2　灰オリーブ色　粘質土　粘性強い　しまり強い
〔造成土〕
4　10YR5/2　灰黄褐色　粘質土　粘性あり　しまり強い
〔鉄分やや含む地山〕

図８　金山城下町遺跡試掘位置図及び土層略図

造成土、地山面から遺物は出土しなかった。

調査の結果、調査地は以前建物が建っていた場所であり、建物を建てた際に大きく造成が入り、遺構があった場合も滅失している可能性が考えられる。

2-5　次郎兵衛塚古墳群近接地試掘

次郎兵衛塚１号墳は、川原石の石室を有する一辺約30mの終末期の方墳である。この首長墳をはじめ、川合地域には次郎兵衛塚、宮之脇、川合稲荷など後期の古墳群が密集している。

その川合北二丁目地内で住宅新築工事が計画され、試掘調査を実施した。

図９　次郎兵衛塚古墳群近接地調査位置図

調査内容

調査地内に、長さ約11.2m、幅約1.0mのトレンチを設定した（図11）。現地表面より約80㎝下で地山面となり、地山面には不定形の遺物を伴わない掘りこみ（植物の根か）がみられた。

遺物は土師器、須恵器、山茶碗を表採した。

調査の結果、調査地は遺構がすでに滅失しているか、古墳群や集落遺跡の範囲外の場所であることが考えられる。

2-6　今渡遺跡試掘

今渡遺跡は、15～18世紀の土坑墓からなる集団墓地であり、瀬戸美濃産陶器などの遺物が出土している。

今渡遺跡の範囲内で住宅新築工事が計画され、試掘調査を実施した。

図10　今渡遺跡調査位置図

調査内容

調査地内に長さ約7.0m、幅約1.0mのトレンチを設定した（図12）。地表面から20～100㎝の掘削を行い、地山面を検出した。地山面には不定形な掘りこみがみられたが、掘りこみ内にバラスが入るものや埋土に地山が混じる改変を受けている掘りこみであった。造成土、地山面から遺物は出土しなかった。

調査の結果、調査地は地山面付近まで改変を受けており、遺跡の範囲外であるか、遺構があった場合もその造成により滅失している可能性が考えられる。

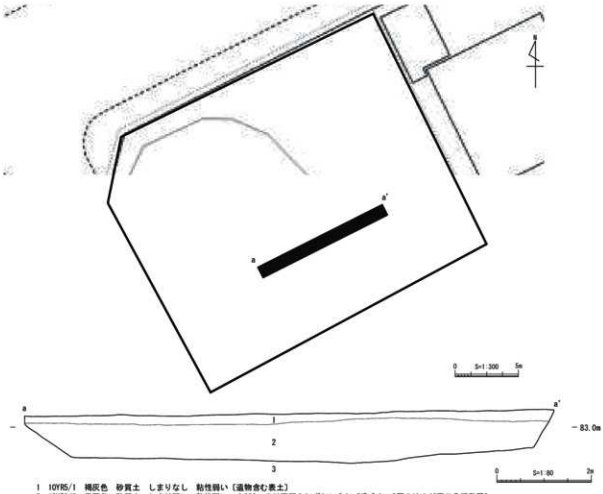


図11　次郎兵衛塚古墳群近接地試掘位置図及び土層図

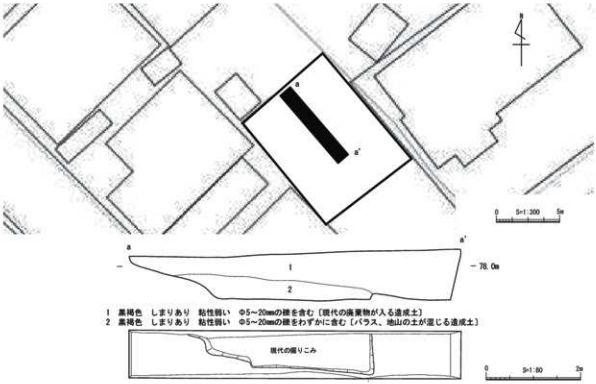


図12　今渡遺跡試掘位置図及び土層図

2-7　柿田遺跡試掘

柿田遺跡は、縄文時代から近現代に至る複合遺跡である。弥生時代中期の水田跡、古墳時代から室町時代までの水制遺構や住居、奈良時代の道路遺構、鎌倉時代の館跡など多くの遺構が検出され、土器や木製品など多くの遺物が出土している。

柿田遺跡の範囲内で住宅新築工事が計画され、試掘調査を実施した。

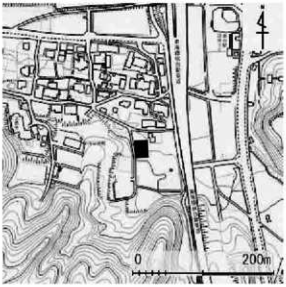


図13　柿田遺跡調査位置図

調査内容

調査地内に2.0m×2.0mのトレンチを２本設定した（図15）。現地表面より約130㎝下まで造成されており、その下に地山面がみられたが、遺構、遺物は確認されなかった。

調査の結果、調査地は遺跡の範囲外か、遺構があった場合も造成により滅失している可能性が考えられる。

2-8　久々利城跡工事立会

久々利城跡は、美濃に勢力を誇った土岐氏の支流である久々利氏の居城として伝わる。東西二股の尾根部分を城域とし、頂上部と登城口との比高差は約65mで、北側と東側は険峻な地形となっている。東側尾根は階段状に約10箇所の曲輪で構成され、発掘調査は行っていないが表採調査を行った結果、15世紀後半～16世紀前半の遺物が多くを占める。

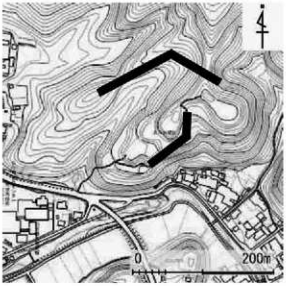


図14　久々利城跡調査位置図

調査内容

既設柵の杭（木製）と横木が老朽化したことで部分的な取り換え及び新規の杭（樹脂製）の打ちこみ等を行い、見学通路の整備を実施した。その過程で遺構及び遺物は確認されなかった。

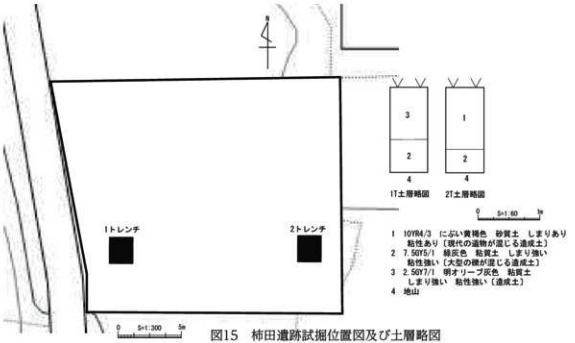


図15 柿田遺跡試掘位置図及び土層略図

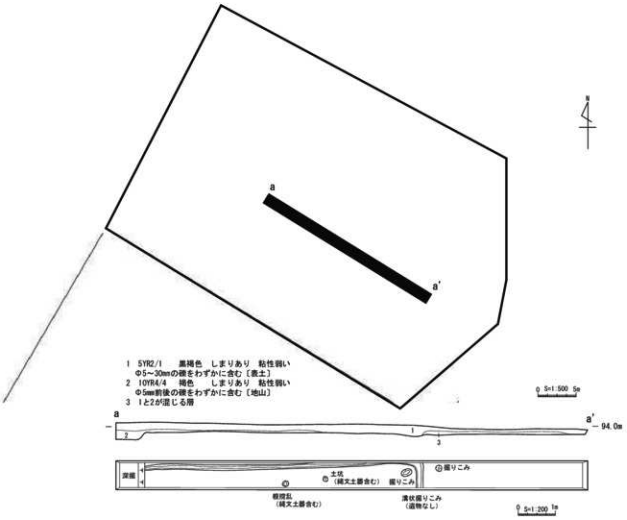


図16 狐塚古墳試掘位置図及び土層図

2-9　狐塚古墳試掘

狐塚古墳は、木曽川左岸に位置する前方部を西に向けた墳長63mの前方後円墳である。周濠を有し、埋蔵施設は南に開口する川原石積みの横穴式石室であり、内部に石棺が安置されていたといわれる。6世紀中頃～後半に築造されたこの地域における最後の前方後円墳であるが、大正9年に壊されてしまっている。

狐塚古墳の範囲内で、マンション新築工事が計画されたため、試掘調査を実施した。

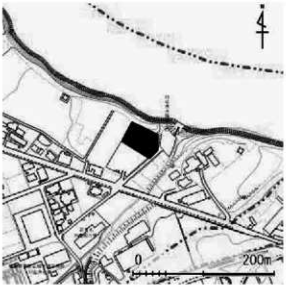


図17　狐塚古墳調査位置図

調査内容

調査地内に長さ約25m、幅約1.5mのトレンチを設定した（図16）。現地表面より約60㎝下で検出面となり、縄文土器を含む土坑が1基、根撹乱や遺物を含まない掘りこみ、溝状の掘りこみが検出された。調査位置は古墳の周濠にかかる可能性が考えられたが、周濠はみられなかった。

調査の結果、古墳に関する遺構は検出されなかったため、調査地では狐塚古墳の遺構が減失しているか、古墳の範囲外と考えられる。また、土坑が1基検出されているが、他の関連する遺構は確認できず、縄文時代の遺跡と断定することはできなかった。

2-10　土田北割田遺跡試掘

土田北割田遺跡は、古墳時代の散布地とされている遺跡である。

北割田遺跡の範囲内で太陽光発電所の建設計画があり、試掘調査を実施した。

図18　土田北割田遺跡調査位置図

調査内容

調査地内に長さ約15.0m、幅約1.0mのトレンチを設定した（図19）。現地表面より約80㎝下で黒色と明褐色の土が混じる検出面となる。検出面に明確な掘りこみ等はみられず、遺跡に伴う遺構はみられなかった。遺物は山茶碗が表採されたが、堆積土及び検出面からは出土しなかった。

調査の結果、後世に改変が入っていることが考えられ、調査地は遺跡の範囲外か、遺構があった場合も造成により減失している可能性が考えられる。

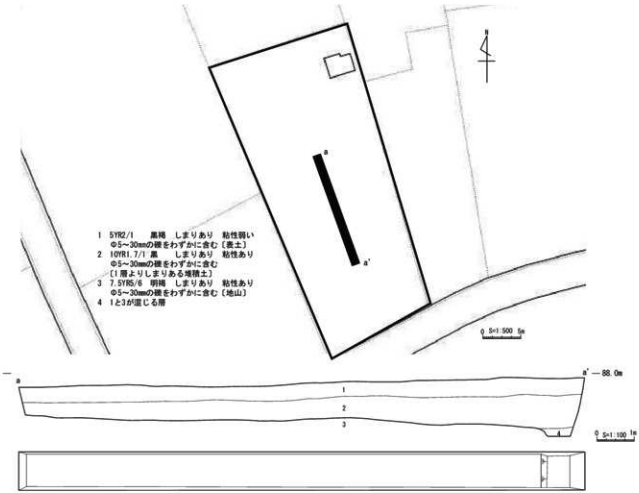


図19　土田北割田遺跡試掘位置図及び土層図

2-11　七ツ塚古墳群工事立会

七ツ塚古墳群は、可児市羽崎地域の東西にのびた丘陵上に位置し、直径1.0～1.5mの墳丘が東西に連なった状態で現存している。

古墳群の位置とはやや離れているが、包蔵地の範囲内で観光用ベンチの設置が計画され、工事立会を実施した。

調査内容

地表面より40～50㎝で凝灰質砂岩の地山面がみられた。掘削土中または地山面には遺構はみられなかった。また、遺物も出土しなかった。

図20　七ツ塚古墳群調査位置図

2-12　柿田西遺跡Ｄ・Ｅ・Ｇ地点試掘

柿田西遺跡は、柿田遺跡の西に位置し、Ａ～Ｇの7地点に分布している。これらの遺跡は、工業団地造成の事前調査として、平成29・30年度に試掘調査を行い、調査成果をもとに範囲を決定している（可児市教育委員会2019、可児市2020b）。遺跡の詳細な範囲確認を目的に、Ｄ地点（図22）、Ｅ地点（図23）、Ｇ地点（図24）にて試掘調査を実施した。

調査内容

Ｄ地点は、Ａトレンチ（約4.0×2.0m）、Ｂトレンチ（約2.0×2.0m）、Ｃトレンチ（約4.0×2.0m）、Ｄトレンチ（約3.8×2.0m）の４箇所のトレンチを設定した。

Ａトレンチでは、幅2.0m以上の自然流路の掘りこみを確認した。対岸は検出されておらず、流路内から遺物は確認されていない。表土からは土師器、須恵器、山茶碗、磁器が出土した。

Ｂ～Ｄトレンチでは遺構は確認されず、Ｂ・Ｄトレンチからは山茶碗、Ｃトレンチからは土師器と現代の磁器が出土した。

Ｅ地点は、Ａトレンチ（約4.0×2.0m）、Ｂトレンチ（約3.7×2.0m）、Ｃトレンチ（約4.0×2.0m）、Ｄトレンチ（約4.0×2.0m）の４箇所のトレンチを設定した。

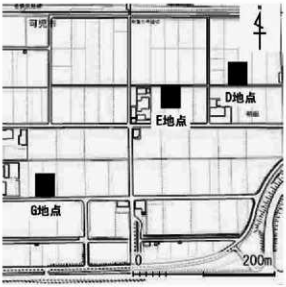


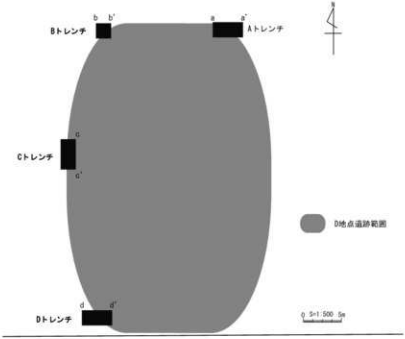
図21　柿田西遺跡Ｄ～Ｇ地点調査位置図

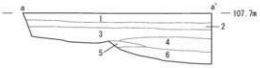
Ａトレンチでは地表面より約70㎝下で杭列を確認した。杭列がみられる砂礫層の面から山茶碗が出土しているほか、表土から土師器、山茶碗、近世陶器が出土している。他のＢ～Ｄトレンチでは遺構は確認されていない。遺物はＢ、Ｄトレンチでは出土していないが、Ｃトレンチでは表土から灰釉陶器、山茶碗、近世陶磁器、現代の磁器が出土している。

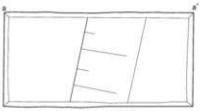
Ｇ地点は、Ａトレンチ（約3.8×2.0m）、Ｂトレンチ（約4.0×2.0m）、Ｃトレンチ（約3.8×2.0m）、Ｄトレンチ（約2.8×2.0m）の４箇所のトレンチを設定した。

Ａ～Ｃトレンチは堆積層から河川や自然流路と考えられ、河川堆積は遺物から近代以降の可能性が高い。Ｄトレンチは暗渠付近で近現代の木杭が検出された。堆積層から沼地だと想定され、沼地に伴う木杭と考えられる。遺物は、Ａトレンチの表土から山茶碗が、Ｂトレンチの堆積土から山茶碗、近世陶器、現代の磁器が、Ｃトレンチの堆積土から土師器、山茶碗、近世陶器、現代の磁器が、Ｄトレンチの堆積土から山茶碗が出土した。

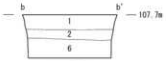
中世以前と考えられる遺構が確認されたのはＥ地点のＡトレンチのみであり、これらの試掘調査成果をもとに、本発掘調査の範囲を決定し、令和３年度以降に各地点の調査を行った。







AT平面図及び土層図

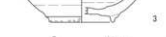


BT土層図

CT土層図

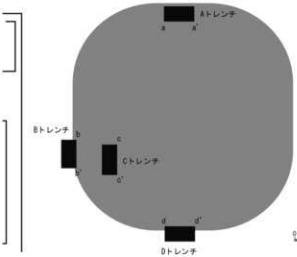
DT土層図

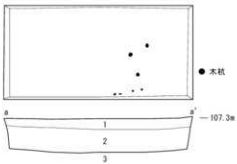
1　10YR4/1　褐灰色　　シルト　しまりあり　粘性あり
　［現代陶磁器、須恵器含む現代の田圃土］
2　5Y4/1　灰色　　シルト　しまりあり　粘性あり［堆積土］
3　10YR4/1　褐灰色　　シルト　しまりあり　粘性あり
　［鉄分、マンガンを含む堆積土］
4　2.5Y 4/1 黄灰色　　シルト　しまりあり　粘性あり［自然流路の埋土］
5　2.5Y5/1　黄灰色　　シルト　しまりあり　粘性あり［自然流路の埋土］
6　5GY6/1　オリーブ灰色　細砂　しまりあり　粘性あり
　［部分的に砂質を含む自然流路の埋土］
6'　6層と同質だが、より多くの砂を含む
7　10YR4/1　褐灰色　シルト　しまりあり　粘性あり
　［3層と同質だが、鉄分、マンガン含まない］



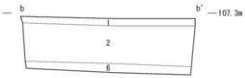
図版	種別	器種	出土位置	口径	器高	底・高台径	残存率(%)	時期・分類	備考
1	山茶碗	小皿	AT 表土	(8.0)	1.8	5.8	口縁部18	黄期	底部外面糸切痕あり。
2	山茶碗	椀	AT 表土	(13.6)	(3.8)	－	口縁部13	大谷期14	内外面に自然釉少量付着。
3	山茶碗	椀	BT 表土	(13.6)	(3.9)	(5.0)	高台部40	大谷期14	高台部にモミガラ痕。底部外面に回転糸切痕あり。底部内面にナデ痕あり。

図22　柿田西遺跡D地点試掘各図

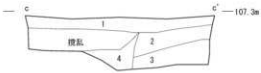




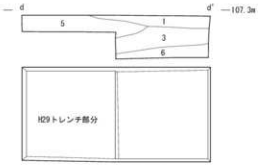
AT平面図及び土層図



BT土層図

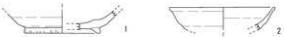


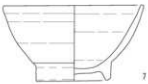
CT土層図

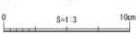


DT平面図及び土層図

1 10YR4/1 褐灰色 シルト しまりあり 粘性あり
〔山茶碗含む田圃土〕
2 10YR4/1 褐灰色 シルト しまりあり 粘性あり
〔鉄分、マンガン含む堆積土〕
3 2.5Y5/1 黄灰色 砂礫層 しまり弱い 粘性弱い
〔検出面直上から遺物が出土する河川堆積土〕
4 5B5/1 青灰色 シルト しまりあり 粘性あり
5 5G4/1 暗緑色 シルト しまり弱い 粘性弱い
〔試掘後の埋戻土。これより下は平成29年度のトレンチ掘削部分〕
6 7.5Y6/1 灰色 シルト しまりあり 粘性あり 〔堆積土〕

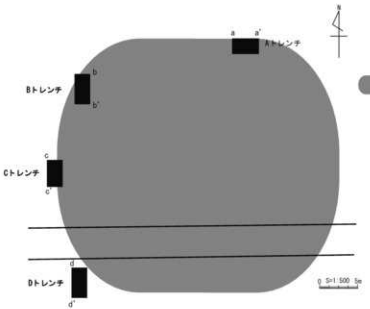


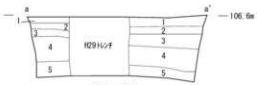




図版	種別	器種	出土位置	口径	器高	底・高台径	残存率(%)	釉薬	時期・分類	備考
1	山茶碗	碗	AT 表土	—	(1.8)	(6.0)	高台部35		明和1	高台部にモミガラ痕。底部内面にナデ痕あり。
2	山茶碗	小皿	AT 表土	(8.4)	(1.8)	—	口縁部14		明和1	
3	瀬戸美濃産陶器	鉢	AT 表土	(22.0)	(3.6)	—	口縁部10	灰釉	17C 前半	
4	灰釉陶器	碗	CT 表土	—	(4.1)	(10.5)	口縁部9		丸石2	底部外面に回転糸切痕あり、内外面に自然釉が付着。
5	山茶碗	碗	CT 表土	—	(1.7)	(7.0)	高台部36		鎌倉末T1	高台部にモミガラ痕あり。
6	山茶碗	碗	CT 表土	—	(3.0)	(5.0)	底部20		丸石3	底部外面に回転糸切痕あり。
7	陶磁器	碗	CT 表土	(11.0)	6.0	6.0	口縁部58	透明釉	江戸後期	内外面に鉄釉あり。
8	陶磁器	瓶台	CT 表土	(7.0)	5.2	4.0	口縁部37	透明釉	近世	外面に鉄釉と、鉄絵あり。

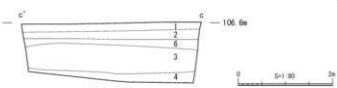
図23 柿田西遺跡E地点試掘各図



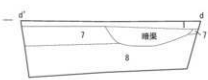


AT土層図

BT土層図

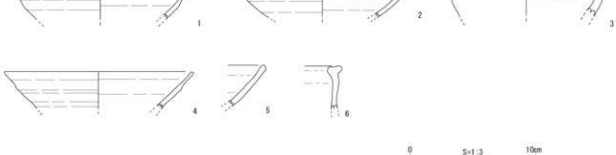


CT土層図



DT土層図

1　10YR4/1　褐灰色　　シルト　しまりあり　粘性あり
〔現代陶器、須恵器を含む田園土〕
2　5Y4/1　　灰色　　シルト　しまりあり　粘性あり〔堆積土〕
3　10YR4/1　褐灰色　　シルト　しまりあり　粘性あり
〔部分、マンガンを含む堆積土〕
4　2.5Y5/2　暗灰黄色　　シルト　しまりあり　粘性あり
〔部分的に砂質が入り、鉄分を含む堆積土〕
5　河川堆積で川底と考えられる。トレンチ中に立ち上がりはみられない。
6　5BG3/1　暗青灰色　　シルト　しまりあり　粘性あり
〔部分的に黒みの強い部分がみられる堆積土〕
7　2.5GY4/1 暗オリーブ灰色　シルト　しまりあり　粘性あり
〔近現代の遺物を含む堆積土〕
8　5GY5/1　オリーブ灰　　シルト　しまりあり　粘性あり
〔木杭が打ち込まれ、現代の瓦含む沼地の堆積〕



図版	種別	器種	出土位置	口径	器高	底・高台径	残存率（%）	胎土	時期・分類	備考
1	山茶碗	碗	AT表土	(15.0)	(3.0)	－	口縁部9		白土原1	
2	山茶碗	碗	BT表土	(15.0)	(3.0)	－	口縁部5		大窯第1	
3	瀬戸美濃産陶器	天目茶碗	BT表土	(12.0)	(3.2)	－	口縁部12	鉄釉	大窯第3段階	
4	山茶碗	碗	CT表土	(15.0)	(3.0)	－	口縁部9		白土原1	
5	山茶碗	碗	CT表土	－	(3.2)	－	－		大窯大原4	
6	瀬戸美濃産陶器	香炉	CT表土	－	(3.4)	－	－	鉄釉	江戸期	

図24　柿田西遺跡G地点試掘各図

第３章　令和３年度試掘確認・立会調査など

3-1・5　柿田西遺跡Ｃ地点試掘調査

柿田西遺跡Ｃ地点では、昨年度のＤ地点等と同様に、本発掘調査前の遺跡の詳細な範囲確認を目的に４月12日に２箇所、９月29日に４箇所の試掘調査を実施した。

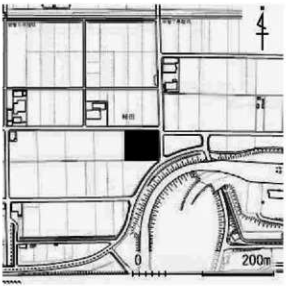


図25　柿田西遺跡Ｃ地点調査位置図

調査内容

東西にＡ・Ｂトレンチ（約4.0m×2.0m）、南北にＣ～Ｆトレンチ（約2.0m×2.0m）を設定した（図27）。

Ａトレンチは現地表面より約1.0m下で地山となり、地山面からは水が湧き出た。トレンチ内では遺構は検出されず、２・３層からは山茶碗や近世陶器が出土した。Ｂトレンチは現地表面より50～60㎝下で礫を多く含む河川堆積層がみられた。遺物を伴わないことから集落等が営まれる以前の堆積と考えられる。Ｃ～Ｆトレンチは地山面である５層までほぼ同様の堆積がみられ、Ｄトレンチでは自然流路または河川内に打ちこまれたと思われる木杭が１本検出された。Ｄトレンチ以外のトレンチでは遺構はみられなかった。遺物はＢ～Ｆの各トレンチの堆積土から土師器、山茶碗、近世陶磁器が出土した。中世以前と考えられる遺構が確認されたのはＤトレンチのみであり、これらの試掘調査成果をもとに、本発掘調査の範囲を決定し、令和３年度にＣ地点の調査を行った。

3-2　徳野遺跡試掘調査

徳野遺跡は昭和61年、平成７年に発掘調査が実施され、弥生時代末～古墳時代前期の住居跡が検出された遺跡である。

遺跡の範囲内で住宅新築工事が計画されたため、試掘調査を実施した。

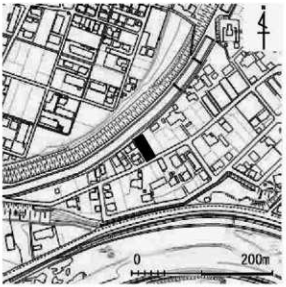
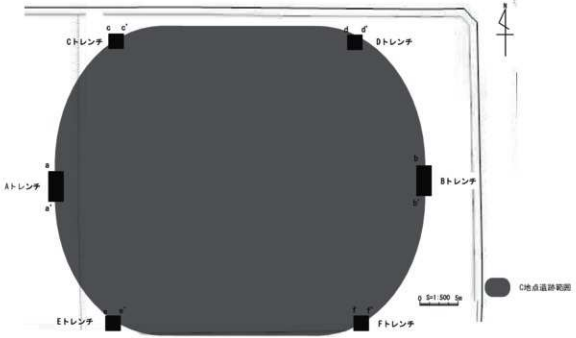


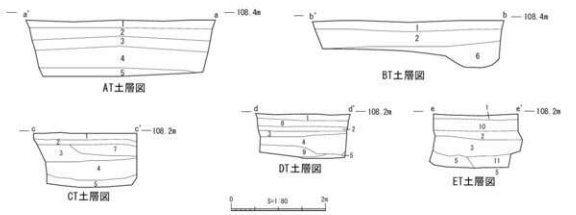
図26　徳野遺跡調査位置図

調査内容

調査地に１トレンチ（約4.0m×1.0m）、２トレンチ（約4.8m×1.0m）を設定した（図28）。

１トレンチは現地表面より約70㎝下まで改変が入っている状況が確認され、２トレンチは現地表面から約80㎝下付近で地山が検出されたが、遺構はみられず、遺物も出土しなかった。





1 N3/ 暗灰色 シルト しまりあり 粘性あり Φ5～20mmの礫をわずかに含む〔床土、表土〕
2 7.5GY4/1 緑灰色 シルト しまりあり 粘性あり Φ5～20mmの礫をわずかに含む〔鉄分、マンガン含む堆積土〕
3 N3/ 暗灰色 シルト しまりあり 粘性あり Φ5～20mmの礫をわずかに含む〔中世の田圃面〕
4 10GY4/1 緑灰色 シルト しまりあり 粘性あり Φ5～20mmの礫をわずかに含む〔鉄分含む堆積土〕
5 10B3 青灰色 シルト しまりあり 粘性あり Φ5～20mmの礫をわずかに含む〔地山〕
6 5Y4/1 灰色 砂礫層 しまり弱い 粘性弱い Φ5～50mmの礫を多く含む
〔鉄分、褐色砂礫含む自然流路底の堆積土、遺物なし〕
7 5BG4/1 暗青灰色 シルト しまりあり 粘性あり Φ5～20mmの礫をわずかに含む〔鉄分含む堆積土〕
8 2.5Y4/2 暗灰黄色 シルト しまりあり 粘性あり Φ5～20mmの礫をわずかに含む〔2層が混じる堆積土〕
9 5BG2/1 青黒色 シルト しまりあり 粘性あり Φ5～10mmの礫をわずかに含む〔炭が入る堆積土〕
10 5Y4/1 灰色 シルト しまりあり 粘性あり Φ5～10mmの礫をわずかに含む〔鉄分、木質含む堆積土〕
11 5BG5/1 青灰色 シルト しまりあり 粘性あり Φ5～10mmの礫をわずかに含む〔炭、木質含む堆積土〕
11' 11層と同じ土質で鉄分含み、木質は含まない

図版	種別	器種	出土位置	口径	器高	底・高台径	残存率（%）	時期・分類	備考
1	山茶碗	碗	DT-堀構土	～	(2.5)	(6.0)	高台部19	明和1～大蔵大系4	底部外面糸切痕あり。
2	山茶碗	碗	DT-堀構土	～	(4.0)	～	～	大須東1	

図27　柿田西遺跡C地点試掘各図

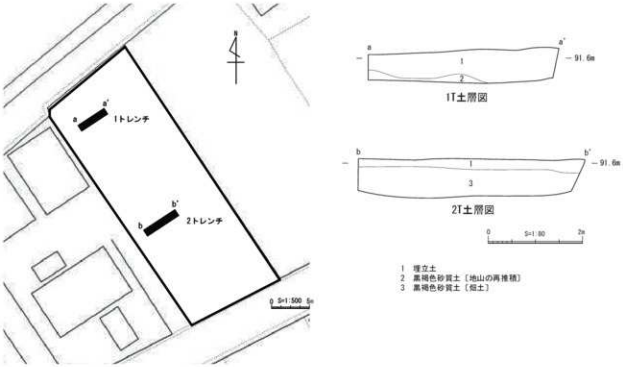


図28　徳野遺跡試掘位置図及び土層図

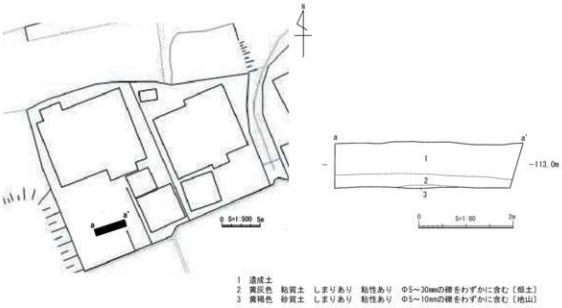


図29　金山城下町遺跡試掘位置図及び土層図

調査の結果、調査地は以前は建物が建っていた場所であり、調査の結果から遺構はすでに滅失しているか、徳野遺跡の範囲外であると考えられる。

3-3　今城跡工事立会

今城は、天文年間頃に小池刑部家継が築いたと伝えられている。城跡は、丘陵先端部に築かれ、主に４つの曲輪で構成される。城内には横堀、桝形虎口等が残り、戦国時代後半に土豪の城を改修したと考えられる。発掘調査はされておらず、遺物も表採されていない。

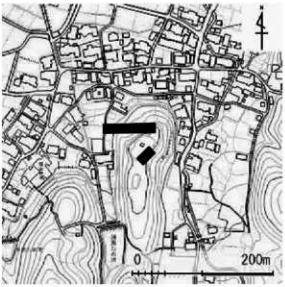


図30　今城跡調査位置図

調査内容

既設柵の杭（木製）と横木が老朽化したことで部分的な取り換え及び新規の杭（樹脂製）の打設等を行い、見学通路の整備を実施した。工事に伴い、遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。

3-4　金山城下町遺跡試掘調査

金山城下町遺跡は、美濃金山城跡と木曽川の間に形成された中世の城下町遺跡である。城下町の本格的な整備は森長可が城主になった後の1570～1584年頃だと想定される。

金山城下町遺跡の範囲内で住宅新築工事が計画されたため、試掘調査を実施した。

図31　金山城下町遺跡調査位置図

調査内容

調査地内に長さ約4.0m、幅約1.0mのトレンチを設定した（図29）。現地表面より約70㎝下まで造成が入り、それより更に20㎝下で地山となる。トレンチ内において遺構は検出されず、遺物は出土しなかった。

調査の結果、調査地は以前建物が建っていた場所であり、建物を建てた際に大きく造成が入ったと思われ、遺構があった場合もその造成により滅失している可能性が考えられる。

3-6　久々利城跡工事立会

久々利城跡は、美濃に勢力を誇った土岐氏の支流である久々利氏の居城として伝わる。東西二股の尾根部分を城域とし、頂上部と登城口との比高差は約65mで、北側と東側は険峻な地形となっている。東側尾根は階段状に約10箇所の曲輪で構成される。

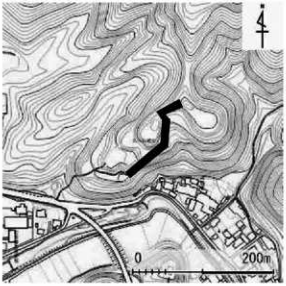


図32　久々利城跡調査位置図

調査内容

見学通路の整備に伴い、新規の杭（樹脂製）の打設等を行った。工事に伴い、遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。

3-7　不孝寺塚古墳工事立会

不孝寺塚古墳は、墳丘、横穴式石室ともに半壊の状態であるが、直径または一辺が20m以上の古墳であり、両袖式の横穴式石室内部には凝灰質砂岩の家形石棺を納める。金環や直刀などが出土したといわれるが、遺物は散逸している。古墳の時期は６世紀後半と推定される。

古墳は民家に接した位置にあり、石室倒壊時に歩行者に被害が及ぶ可能性があることや石室及び石棺の保護のために安全対策工を行うこととした。石室内に支保工を行い、土嚢袋を充填するとともに西にある道側にコンクリート杭を追加し、パネルをたて、土留め工を行った。

図33　不孝寺塚古墳調査位置図

調査内容

玄室内の支保工のパイプサポートのために少量の掘削を行うが、掘削部分は後世に堆積した土であった。また、コンクリートの打ちこみ時にも遺構、遺物はみられなかった。

3-8・9　柿田遺跡工事立会

柿田遺跡は、縄文時代から近現代に至る複合遺跡である。弥生時代中期の水田跡、古墳時代から室町時代までの水制遺構や住居、奈良時代の道路遺構、鎌倉時代の館跡など多くの遺構が検出され、土器や木製品など多くの遺物が出土している。

柿田遺跡の範囲内で道路拡幅工事、用排水構造物の撤去及び新設が計画され、工事立会を行った。

調査内容

道路拡幅工事に伴う掘削部分は、以前に水路が通っていた場所であり、幅約4.0m、掘削深度は現地表面より1.5m程度である。過去の水路施工時に今回の掘削深度付近まで改変が入っているため、遺構、遺物はみられなかった。(3-8)

用排水構造物の撤去及び新設時の工事立会は、現地表面から約1.5m下まで埋め立てがされており、その下が地山となる状況が確認された。隣接する調査地点では、ほぼ同レベルの地表面から約1.0m下で遺構が検出されているため、過去の造成により滅失している可能性が高いと考えられる。(3-9)

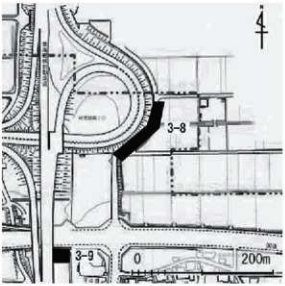


図34　柿田遺跡調査位置図

3-10　土田定安遺跡試掘

土田定安遺跡は、可児市北西部、木曽川左岸の低位段丘に位置し、東西150m、南北50mの範囲に広がる古墳時代の遺物散布地である。当地より300mほど北側には、八幡古墳群が所在し、付近は耕作地・宅地が広がっている。

土田定安遺跡の範囲内で住宅新築工事が計画されたため、試掘調査を実施した。

調査内容

調査地内に長さ約8.0m、幅約1.0mのトレンチを設定した（図36)。現地表面より約20㎝掘削すると、地山面に達した。地山面に遺構はみられず、遺物は出土しなかった。

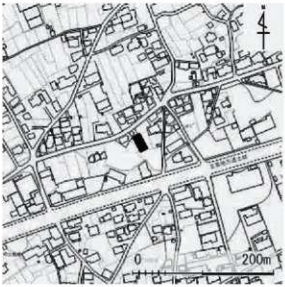


図35　土田定安遺跡調査位置図

調査地は、昭和60年頃に砂利採取が行われたといわれていたが、その痕跡はなく遺構があった場合も過去の造成により滅失している可能性が考えられる。

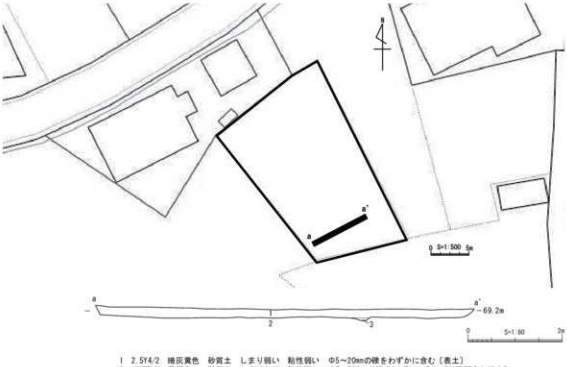


図36　土田定安遺跡試掘位置図及び土層図

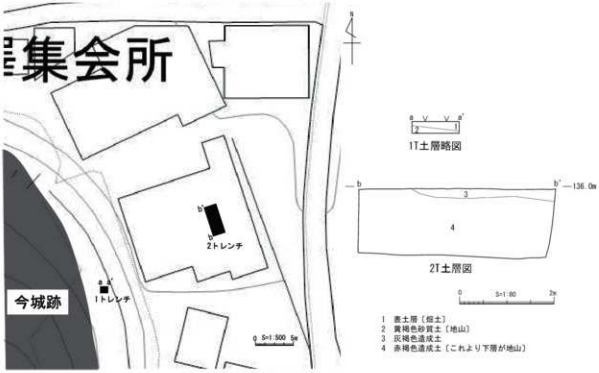


図37　今城跡試掘位置図及び土層図

3-11　今城跡試掘

今城は、天文年間頃に小池刑部家継が築いたと伝えられている。城跡は、丘陵先端部に築かれ、主に４つの曲輪で構成される。

今城跡の範囲内と近接する場所で、住宅新築工事と斜面部分の擁壁設置工事が計画されたため、試掘調査を実施した。

図38　今城跡調査位置図

調査内容

擁壁設置を行う段丘部分に、１トレンチ（約1.0m×1.0m）、住宅新築部分に２トレンチ（約4.1m×1.8m）のトレンチを設定した（図37）。

１トレンチは、城跡側の段地形部分であり、現地表面より約20㎝下で地山となる。地山面は谷側に向かって斜面となる自然地形であり、削平をされている様子はみられなかった。２トレンチは地権者によると以前に建物が建っていたようで現地表面より約1.6m下まで造成が入っている。その下の地山面においても遺構は検出されなかった。両トレンチとも遺物は出土しなかった。

調査の結果、調査地の段丘部分では城跡の遺構は確認されなかったため、城跡の空閑地であるか、範囲外と想定される。また、住宅新築部分は造成により遺構が滅失しているか、今城跡に伴う町場が東方向に展開していなかった可能性が考えられる。

第４章　令和４年度試掘確認・立会調査など

4-1　鳴子東遺跡試掘調査

鳴子東遺跡は、可児市の西部に位置し、木曽川左岸の低位段丘面にあり、付近一帯は平坦な地形となっている。縄文時代の散布地であり、過去に石器が拾えたといわれている。

遺跡の範囲内で住宅新築工事が計画されたため、試掘調査を実施した。

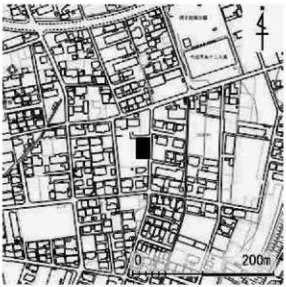


図39　鳴子東遺跡調査位置図

調査内容

調査地内に、長さ約10.6m、幅約1.2mのトレンチを設定した（図41）。現地表面から約90㎝までは改変が入り、堆積土内にはビニール片等がみられる。地山面に溝状の掘りこみが２条みられたが、埋土内にビニール等が含まれることから現代の改変が入っていることが明らかとなった。

調査の結果、調査地は鳴子東遺跡の範囲外か、現代の改変により遺構が滅失している可能性が考えられる。

4-2・8　金山城下町遺跡工事立会

金山城下町遺跡は、美濃金山城跡と木曽川の間に形成された中世の城下町遺跡である。城下町の本格的な整備は森長可が城主になった後の1570～1584年頃だと想定される。

金山城下町遺跡の範囲内で２軒の住宅新築工事が計画されたが、以前住宅が建っていた場所であるため、６月と１月に工事立会を実施した。

調査内容

調査地は周辺地形と比べ、90㎝程度盛土が行われた場所であり、以前住宅が建てられた際に盛られたと考えられる。新規建物の基礎の深さは現地表面より６月施工の住宅は約30㎝（4-2）、１月施工の住宅は約40㎝（4-8）の深さであり、盛土の中におさまり遺構はみられず、遺物も出土しなかった。

図40　金山城下町遺跡調査位置図

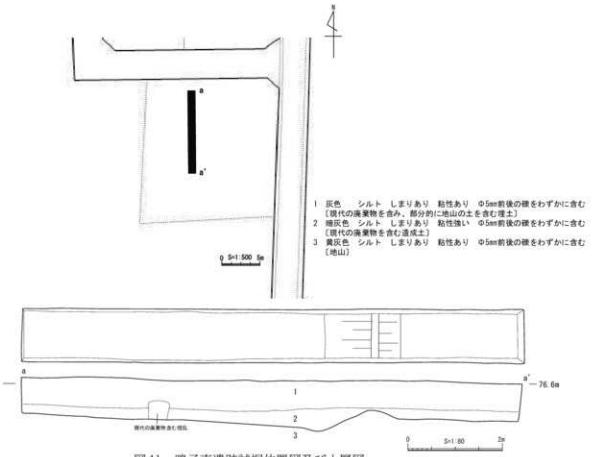


図41 鳴子東遺跡試掘位置図及び土層図

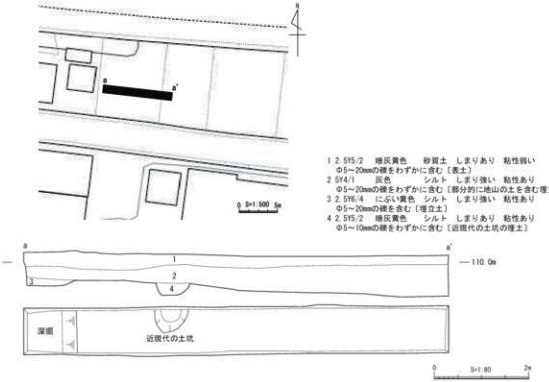


図42 柿田遺跡試掘位置図及び土層図

4-3　柿田遺跡試掘調査

柿田遺跡は、縄文時代から近現代に至る複合遺跡である。弥生時代中期の水田跡、古墳時代から室町時代までの水制遺構や住居、奈良時代の道路遺構、鎌倉時代の館跡など多くの遺構が検出され、土器や木製品など多くの遺物が出土している。

遺跡の範囲内で住宅新築工事が計画されたため、試掘調査を実施した。

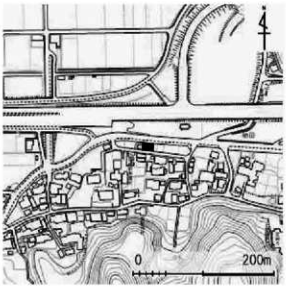


図43　柿田遺跡調査位置図

調査内容

調査地内に、長さ約9.0m、幅約1.0mのトレンチを設定した（図42）。現地表面から約70㎝下で地山面となり、地山面も一部埋め立てが行われるなど改変が入っていた。土坑が１基検出されたが、埋土からは近代の陶磁器が出土した。その他の遺構は検出されず、表土や堆積土から土師器、須恵器、山茶碗などが出土した。

調査の結果、調査地は柿田遺跡の範囲外か、造成により遺構が滅失している可能性が考えられる。

4-4　野中古墳工事立会

野中古墳は、可児地域で最初に造られた古墳時代前期中頃～後半の前方後円墳であり、墳長は約62mを測る。墳丘の多くは滅失しているが、過去の調査において二段築成で、狭い周溝が回り、葺石を有していることが確認されている。埋葬施設は後円部に竪穴式石槨が２基あったといわれ、刀剣８本（所在不明）と三角縁三神三獣鏡が出土している。

古墳の周溝が確認される可能性があったため、分譲住宅建設に伴い、工事立会を実施した。

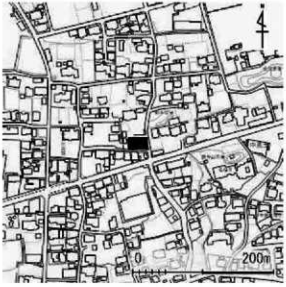


図44　野中古墳調査位置図

調査内容

調査地は現地表面より約90㎝下まで改変が入っており、造成土には塩化ビニールのパイプや針金等が含まれる。その下が地山面となるが、古墳等に該当するような遺構はみられず、遺物も出土しなかった。

野中古墳の周溝は、狭めと考えられており、調査地よりも北側の範囲に収まるか、造成により滅失している可能性が考えられる。

4-5　長塚古墳試掘調査

長塚古墳は、墳丘72mを測る東濃地方最大の前方後円墳で、墳丘は二段築成で葺石や埴輪はないが、周囲に濠を備える。埋葬施設は前方部に1基、後円部に1基検出されており、前方部は木棺直葬でガラス玉や石鋲、摂文鏡などが副葬されていた。後円部は粘土槨が良好な状態で検出されている。後円部から出土した土器から古墳時代前期末（4世紀後半）の築造と推定される。

遺跡の範囲内で事務所建設が計画されたため、試掘調査を実施した。

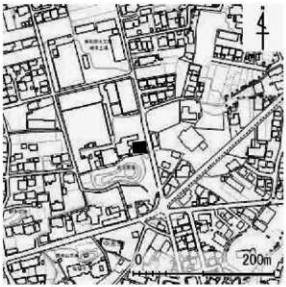


図45　長塚古墳調査位置図

調査内容

調査地内に1トレンチ（約3.0m×1.5m）、2トレンチ（約2.5m×1.5m）を設定した（図47）。コンクリート面より約120㎝下付近までビニール等が入る埋立土であり、標高101.0m付近まで改変が入っている。長塚古墳の濠が唯一確認されている西側で濠が検出された高さが標高101.0m付近であり、調査地はその高さ付近まで後世の改変が入っている。土層などの観察状況からも濠など古墳に関する遺構は検出されず、遺物も出土しなかった。

調査の結果、調査地部分の濠は滅失している可能性が考えられる。

4-6　今渡金屋遺跡試掘調査

今渡金屋遺跡は、低位段丘上の微高地に立地している。16世紀初め～17世紀初めの鋳物師集団の集落と考えられ、過去の調査では、溝や掘立柱建物跡が検出された他、遺物は古瀬戸、大窯製品、鉄滓などが出土している。

遺跡の範囲内で店舗建設が計画されたため、試掘調査を実施した。

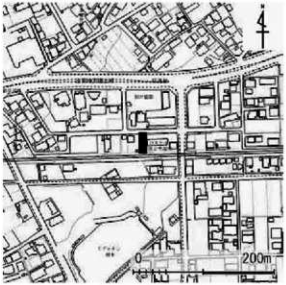


図46　今渡金屋遺跡調査位置図

調査内容

調査地内に、長さ約9.0m、幅約1.0mのトレンチを設定した（図48）。トレンチの南端から約2.8mまでは現地表面から約40㎝下で地山面がみられるが、それより北側は一定の深さまでコンクリート片を含む埋め立てが行われている。

地山面では掘りこみを1箇所検出したが、埋土には現代のタイルを含んでいた。

調査の結果、調査地は今渡金屋遺跡の範囲外か、遺構が滅失している可能性が考えられる。

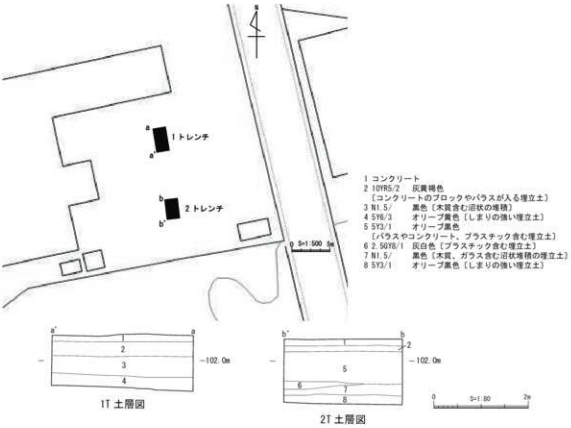


図47　長塚古墳試掘位置図及び土層図

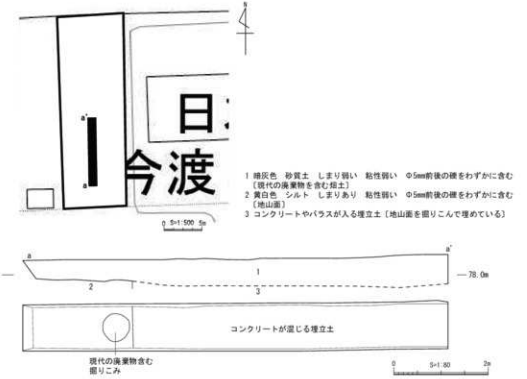


図48　今渡金屋遺跡試掘位置図及び土層図

4-7　北裏遺跡工事立会

北裏遺跡は、可児市土田地域に位置し、多時期にわたる遺物が出土した複合遺跡である。特に縄文時代の合口甕棺、炉跡、石組遺構などの遺構が検出され、土偶や耳飾、玉類などの遺物が出土された遺跡として周知されている。

北裏遺跡の範囲内で既存建物解体、住宅新築工事が計画されたため、工事立会を実施した。

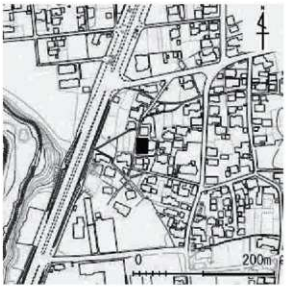


図49　北裏遺跡調査位置図

調査内容

旧建物の基礎は現地表面より約50㎝下まで入り、その付近までは旧建物全体に改変が入っている状況であった。それより10㎝程度掘りこむと黄灰色の地山がみられた。掘削部分及び地山面には遺構はみられず、遺物は出土しなかった。

調査地付近の過去の試掘結果では現地表面より50㎝程度下で遺構が検出されている。そのため、遺構があった場合でも旧建物の造成により滅失している可能性が高い。また、掘削土中に遺物がみられないことからも調査地に遺構がなかった可能性も考えられる。

4-9　宮之脇古墳群近接地試掘調査

調査地は、可児市の中央北部、木曽川左岸の低位段丘面の川岸にあり、付近一帯は平坦な地形となっている。周辺には次郎兵衛塚古墳群や宮之脇古墳群、宮之脇遺跡が密集している地域である。

住宅新築工事が計画された場所は古墳があったといわれている場所であるため、試掘調査を実施した。

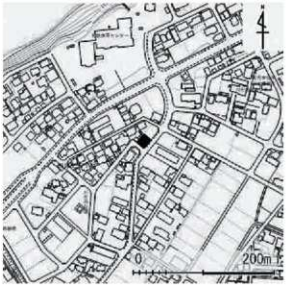


図50　宮之脇古墳群近接地調査位置図

調査内容

調査地内に、長さ約8.8m、幅約1.0mのトレンチを設定した（図51）。現地表面から40～100㎝下で地山面となる。地山面には２箇所の掘りこみがみられたが、掘りこみの埋土は表土と地山が混じる土であり、遺物は含まれなかった。堆積土からも遺物は出土していない。

調査の結果から、調査地には古墳等の遺跡がなかったか、遺跡があった場合でも滅失している可能性が考えられる。

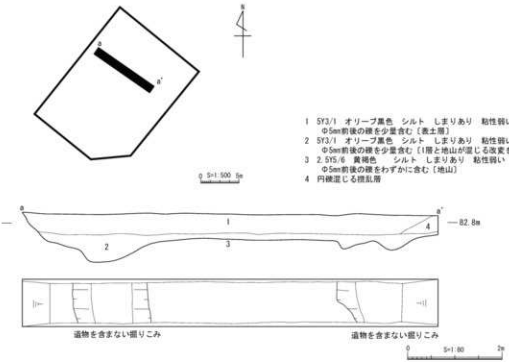


図51　宮之脇古墳群近接地試掘位置図及び土層図

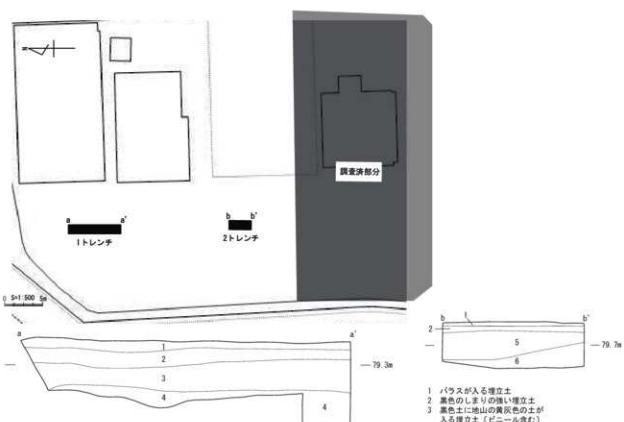


図52　今渡金屋遺跡試掘位置図及び土層図

4-10　金山城下町遺跡工事立会

金山城下町遺跡は、美濃金山城跡と木曽川の間に形成された中世の城下町遺跡である。

金山城下町遺跡の範囲内で既存建物解体、住宅新築工事が計画されたため、工事立会を実施した。

調査内容

既存建物の基礎解体に際し、現地表面より70㎝程度掘削を行うが、川原石や現代の陶磁器が混じる埋立土であり、遺構はみられなかった。堆積土にも金山城下町遺跡に伴う遺物はみられなかった。

調査の結果、調査地は既存建物を建てた際の造成が入っており、当地に遺構があった場合もその造成により滅失している可能性が考えられる。

図53　金山城下町遺跡調査位置図

4-11　今渡金屋遺跡試掘調査

今渡金屋遺跡は、低位段丘上の微高地に立地している。16世紀初め～17世紀初めの鋳物師集団の集落と考えられ、過去の調査では、溝や掘立柱建物跡が検出された他、遺物は古瀬戸、大窯製品、鉄滓などが出土している。

遺跡の範囲内で分譲住宅の新築工事が計画されたため、試掘調査を実施した。

調査内容

調査地に。1トレンチ（約7.0m×1.2m）と2トレンチ（約3.0m×1.2m）を設定した（図52）。両トレンチともに現地表面より90～150㎝下まで埋め立てが行われ、2トレンチ内で削った地山を盛り、展圧をかけている状況が確認された。

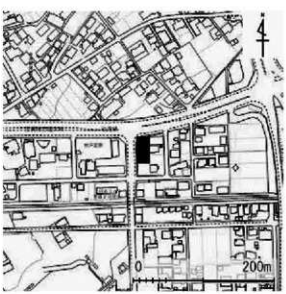


図54　今渡金屋遺跡調査位置図

調査の結果、調査地付近の過去の試掘結果では標高80.5m付近で遺構が確認されており、当地ではその標高より下まで大きく改変が入っていることが確認された。そのため、今渡金屋遺跡の範囲外かすでに遺構が滅失している可能性が考えられる。

第５章　北裏地内古墳出土資料紹介

可児市土田には縄文時代から中世までの複合遺跡として知られる北裏遺跡がある。国道21号線と41号線を結ぶ名濃バイパスの建設に伴い昭和46年度に発掘調査が行われ、昭和48年に発掘調査報告書が刊行されている。報告書は遺構の文章や図面の表記は少なく、縄文時代の遺物紹介が中心となっており、古墳時代についてはほぼ記載されていない。

その中で「石囲」として「川原石を長方形状に配列して内部に小石を敷いたものの一部分が出土した。（中略）この遺構はかつてこの地点に多くの小形の円墳が存在していたため、その一基の床面の一部と考えられる」という記載があるが、詳細な図面や写真等は報告書に掲載されていない。また、古墳に伴う可能性がある須恵器として甕、横瓶、短頸壺、坏蓋、坏身、鼎などが小破片で出土したとして掲載されているが、「石囲」が検出された位置から離れた北にある調査地点から出土しているようであり、「石囲」に伴う須恵器ではないことが分かる。報告書内の別頁にて、古墳について「円墳で石室が存在していた」、「堀が円墳の周囲に存在していた」、「昭和15年頃に古墳が壊された」といった記載があり、北裏遺跡付近に何基かの古墳があったことが想定される。

令和４年度、北裏遺跡調査地付近の畑から出土した須恵器と出土した時の写真が可児市に寄贈された。これらの資料は北裏遺跡の調査とほぼ同時期に調査地点のやや西側（図55）、里芋貯蔵穴を掘る際に地表面より約80㎝下で出土したものとされる。写真を見るに川原石の礫床を有する横穴式石室と考えられるが、床面の川原石は所々外れており、高低差があるようにみえる。また、側壁及び奥壁は残っておらず、規模等は不明であるが、木曽川沿いに多くみられた小規模な川原石積みの横穴式石室と想定される。床面に須恵器が点在し、高坏は坏部を下に向けている他、坏身と内面を上にした坏蓋の上に２点の坏身がのった状態であることが分かる。これが古墳時代当時からの配置なのかは不明である。ただ､写真から寄贈された須恵器はこの石室に伴うものであると考えられ、北裏地内の古墳の様相を示す資料として重要であると考えられるため､この機会に資料紹介を行う。

須恵器は、坏蓋（１・２）、坏身（３、５～７）、高坏（４）、の７点である（図56）。１・２は、天井部と口頸部の境に稜がみられ、口頸部は直線的である。口縁部は丸みを帯び、内面に弱い凹線がめぐる。３の口縁部は内傾気味に立ち上がり、受け部はやや上方につまみ出す。４は有蓋高坏であり、脚部はハの状に開き、端部で更に外傾する。坏部の口縁部は立ち上がりが低く、やや直線的である。１～４は蝮ヶ池窯式期にあたる。５～７はH-44号窯式期の坏身である。口縁部はやや内傾するもの（５・６）と直線的に立ち上がるもの（７）がみられ、端部は丸く収める。受け部はやや上方に引き出される。７は、受け部付近に他の須恵器片が融着しており、焼成時に重ねて焼かれていたことが分かる。また、過去の接合時に近世陶器片が隙間に入れられている。他の須恵器が完形に近いことから「図版10　北裏古墳２」の写真の中央付近の割れている個体は７と考えられる。これら蝮ヶ池窯式期とH-44号窯式期の須恵器から北裏古墳は２回以上の追葬をしていたことが想定される。

報告書の記載から北裏遺跡周辺にも何基かの円墳が点在していたことが明らかであり、今回の遺物紹介で大まかに古墳が造られた前後の時期を把握できたと思われる。

土田地内には木曽川沿いに大規模に造営された渡古墳群があり、渡古墳群には石棺を有した東山古墳がみられる。また、南側にも石棺を有したといわれる土田北割田２号墳を含めた十数基からなる北割田古墳群が造営されている。その間の地域にも２つの古墳群と同時期と考えられる北裏古墳群が数基ではあるが、造営されていたことが想定される（図55）。

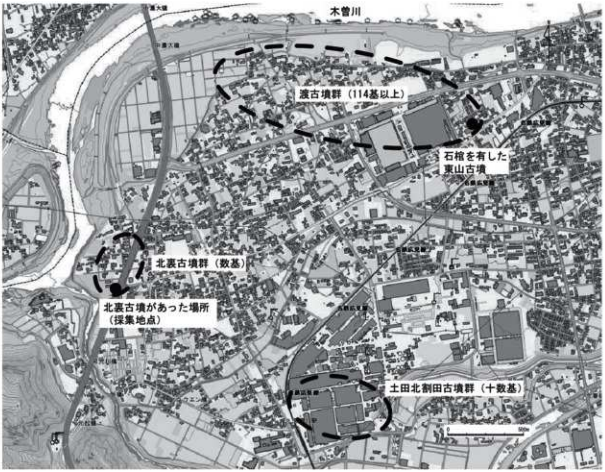
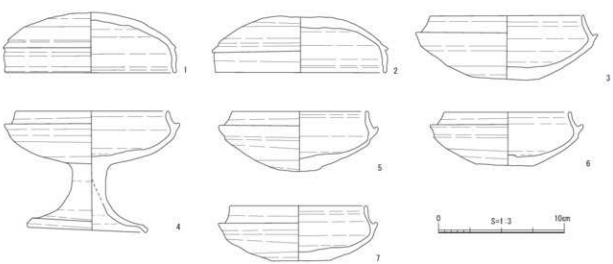


図55　土田地域における古墳の分布［(c) 岐阜県の一部を改変］



番号	種類	器種	口径	器高	その他	胎土	焼成	色調	残存率(%)	成形・調整	ロクロ	その他	時期
1	須恵器	坏蓋	(13.3)	4.1		密	良好	内・外面灰色	口縁部7	回転ナデ、天井部外面回転ヘラケズリ	右		橋ケ池
2	須恵器	坏蓋	13.6	4.5		密	良好	内・外面灰色	口縁部100	回転ナデ、天井部外面回転ヘラケズリ	右		橋ケ池
3	須恵器	坏身	12.2	5.1	受部径14.5	密	良好	内・外面灰色	口縁部100	回転ナデ、底部外面回転ヘラケズリ	右		橋ケ池
4	須恵器	有蓋高坏	12.3	9.4	受部径14.0、脚端部径9.4	密	良好	内・外面灰色	口縁部100	回転ナデ、底部外面回転ヘラケズリ	右	底部内面に指圧痕、底部外面、脚部に自然釉が付着	橋ケ池
5	須恵器	坏身	10.6	4.7	受部径12.6	密	良好	内・外面灰色	口縁部100	回転ナデ、底部外面回転ヘラケズリ	右		H-44
6	須恵器	坏身	10.1	4.2	受部径12.2	密	良好	内・外面灰色	口縁部100	回転ナデ、底部外面回転ヘラケズリ	右		H-44
7	須恵器	坏身	10.8	4.4	受部径12.6	密	良好	内・外面灰色	口縁部79	回転ナデ、底部外面回転ヘラケズリ	右	底部内面に指圧痕、外面に自然釉が付着	H-44

図56　北裏古墳出土遺物

＜参考文献＞

愛知県史編さん委員会　2007 『愛知県史　別編　窯業2　中世・近世　瀬戸系』
可児市　2005 『可児市史　第一巻　通史編　考古・文化財』
可児市　2020a 『宿遺跡及び可児市市内遺跡発掘調査報告書（H28～29年度）』
可児市　2020b 『可児市市内遺跡発掘調査報告書（平成30・令和元年度）』
可児市教育委員会　1994 『川合遺跡群』
可児市教育委員会　2009 『柿田遺跡馬乗洞地点』
可児市教育委員会　2009 『柿田月田遺跡・清水経塚古墳』
可児市教育委員会　2014 『柿田遺跡（道の駅地点）・ほうの木古窯跡』
可児市教育委員会　2019 『柿田西遺跡発掘調査報告書』
可児町　1980 『可児町史』
可児町北裏遺跡発掘調査団　1973 『北裏遺跡　国道41号線名濃バイパス建設地内埋蔵文化財発掘調査報告書』
岐阜県教育委員会　2004 『岐阜県中世城館跡総合調査報告書　第三集（可茂地区・東濃地区）』
財団法人愛知県埋蔵文化財センター　1994 『松河戸遺跡』
財団法人岐阜県教育文化財団　2005 『柿田遺跡』
岐阜県文化財保護センター　2014 『今渡遺跡』

図版 1

2-1　1T 西壁土層（東より）

2-1　2T 東壁土層（西より）

2-1　3T 掘削後全景（南より）

2-1　4T 掘削後全景（南より）

2-1　出土遺物

2-1　出土遺物

2-2　伐根風景（北より）

2-3　2T 完掘状況（南より）

2-3　3T 石室石材検出状況（西より）

2-3　4T 北壁土層（南より）

2-4　東T東壁土層（西より）

2-4　西T東壁土層（西より）

2-5　トレンチ北壁土層（南東より）

2-5　出土遺物

2-6　掘りこみ完掘状況（北より）

2-6　トレンチ東壁土層（北西より）

図版３

2-6　出土遺物

2-7　1T 北壁土層（南西より）

2-7　2T 北壁土層（南東より）

2-8　既設柵再設置風景（北より）

2-9　溝状掘りこみ検出状況（東より）

2-9　完掘風景（西より）

2-9　出土遺物

2-10　完掘風景（南西より）

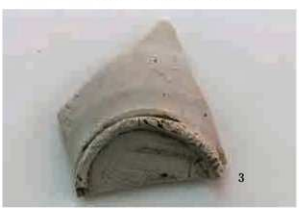
2-11　掘削坑（東より）

2-12　D地点 AT 北壁土層（南東より）

2-12　D地点 CT 東壁土層（西より）

2-12　D地点 DT 北壁土層（南より）

2-12　D地点 AT 出土遺物



2-12　D地点 BT 出土遺物

2-12　E地点 AT 北壁土層（南より）

2-12　E地点 CT 東壁土層（西より）

図版５

2-12　E地点 AT 出土遺物

2-12　E地点 CT 出土遺物

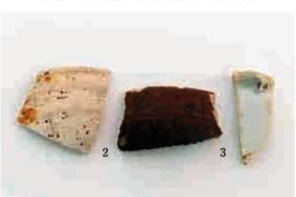
2-12　E地点 CT 出土遺物

2-12　E地点 CT 出土遺物

2-12　G地点 AT 北壁土層（南より）

2-12　G地点 CT 東壁土層（西より）

2-12　E地点 AT 出土遺物



2-12　E地点 BT 出土遺物

2-12　E地点 CT 出土遺物

3-1　C地点 AT 西壁土層（東より）

3-1　C地点 BT 西壁土層（東より）

3-1　C地点 AT 出土遺物

3-2　1T 北壁土層（東より）

3-2　2T 北壁土層（東より）

3-3　今城跡整備風景（北より）

3-4　トレンチ北壁土層（南より）

図版７

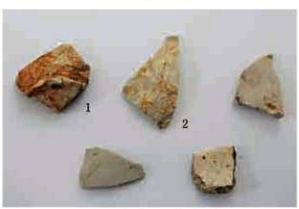
3-5　C地点 CT 北壁土層（南より）

3-5　C地点 DT 北壁土層（南より）

3-5　C地点 ET 北壁土層（南より）

3-5　C地点 FT 北壁土層（南より）

3-5　C地点 CT 出土遺物



3-5　C地点 DT 出土遺物

3-5　C地点 ET 出土遺物

3-6　久々利城跡整備風景（西より）

3-7　支保工掘削部分土層（西より）

3-8　道路拡張部分土層（南西より）

3-9　構造物撤去後土層（南より）

3-10　トレンチ北壁土層（南より）

3-11　1T 地山面（南より）

3-11　2T 西壁土層（東より）

4-1　盛土付近検出状況（東より）

4-1　トレンチ東壁土層（北西より）

図版９

4-2　基礎部分掘削状況（北より）

4-3トレンチ北壁土層（南西より）

4-3　表採及びトレンチ出土遺物

4-4　基礎掘削部分北壁（南より）

4-5　1T 西壁土層（北東より）

4-5　2T 西壁土層（北より）

4-6　トレンチ西壁土層（東より）

4-6　完掘風景（南より）

4-7　構造物撤去後土層（西より）

4-8　基礎部分掘削状況（西より）

4-10　構造物撤去後土層（西より）

4-11　1T 完掘状況（北西より）

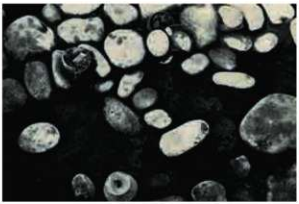
4-11　2T 東壁土層（西より）

北裏古墳 1

北裏古墳 2

北裏古墳 3

図版11



北裏古墳４

北裏古墳出土遺物１

北裏古墳出土遺物２

北裏古墳出土遺物３

北裏古墳出土遺物４

北裏古墳出土遺物５

北裏古墳出土遺物６

北裏古墳出土遺物７

報 告 書 抄 録

ふ り が な	かにし しないいせき はっくつちょうさ ほうこくしょ
書　　名	可児市市内遺跡発掘調査報告書（R2～R4年度）
副 書 名	
巻　　名	
シリーズ名	可児市埋文調査報告
シリーズ番号	60
編集者名	長江　真和
編集機関	可児市経済交流部　歴史資産課
所　在　地	〒509-0292　岐阜県可児市広見一丁目１番地
発行年月日	西暦2024年7月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地名	コード		北緯	東経	調査期間 面　積	調査原因
		市町村	遺跡番号				
北裏遺跡 他33地点	岐阜県可児市内（ぎふけんかにしない）	21214	4702他				住宅開発等

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
川合雨池古墳	古墳	古墳	石室の一部		大きく損壊しているが、石室の一部を検出し、「川合雨池古墳」という新規の古墳が発見された。
北裏古墳	古墳	古墳		須恵器	土田北裏地内にあったという古墳の出土遺物紹介

可児市埋文調査報告　60

可児市市内遺跡発掘調査報告書
（R2～R4年度）

令和６年６月28日　印刷
令和６年６月28日　発行

編集・発行　可児市経済交流部　歴史資産課
〒509-0292　岐阜県可児市広見一丁目１番地
℡ 0574-62-1111　Fax 0574-63-6751
印　　刷　丸理印刷株式会社